



渡邊 博美

一般社団法人東北経済連合会 副会長

「つなぐ力」パワーオブネットワーク

平成の30年間は世界的には、各地で新しい力関係や自国の権益を第一とするせめぎあいが出た緊張の時代でした。

わが国においては、近代の明治、大正、昭和が戦争の影響が大きかったのに比べ、人口減少、少子高齢化、地方創生などの新しい課題と複合災害(阪神淡路大震災、東日本大震災と原発事故、熊本、北海道地震、各地の豪雨)など経験したことがない出来事に翻弄された時代でした。

最近、私たちの故郷福島県に明るいニュースが伝わりました。一つは、東北中央自動車道の一部開通による効果です。福島県の太平洋側に位置する相馬市から内陸部の福島市、そして山形県の南部、米沢市が無料の高速道路として一部開通しました。交流人口は1.5倍を超え、広域ネットワークが動きだしました。観光マップや祭りの交流、イベント情報の発信など人と地域の距離が縮まりました。これも38年前から私たちの先人が地域経済を活性化するため商工会議所の部会、委員会、女性会、青年部と行政が国への要望、イベント協力をした取組みが実りとなりました。米沢市から山形市、そして相馬市の常磐道にも今年中につながり復興の強力な力となりそうです。

もうひとつは2020東京オリンピック・パラリンピックの来春にNHK朝の連続テレビ小説に福島市生まれの大作曲家、古関裕而、金子夫妻をモデルにした「エール」が決定したことです。前回の東京オリンピックマーチ、高校野球でおなじみの「栄冠は君に輝く」、阪神タイガースの「六甲おろし」などのスポーツ音楽や、「長崎の鐘」、「イヨマンテの夜」など、生涯五千を超える作曲をし、私たちに希望を与えてくれたメロディと物語は、復興に頑張る人たちに文字通り「エール」を贈ってくれると思います。これも商工会議所の青年部や市民、そして妻の金子さんの故郷、愛知県豊橋市などと署名活動を展開し、16万人の署名を集めたり、記念音楽祭など「つなぐ力」パワーオブネットワークに取り組んだ成果と思います。

これからの新時代、個々の地域からネットワークの力で世代、組織、地域をつなぐ大切さを共有していきたいと思います。

(福島県商工会議所連合会 会長 わたなべ ひろみ)